

令和元年度

長岡京市立中学校米国短期交換留学事業

米国マサチューセッツ州  
アーリントン訪問報告書

長岡京市立中学校米国短期交換留学協議会

## はじめに

Every year we have wonderful students apply for our program. Choosing who will have the chance to come to Arlington is never easy. But, every year I find that the students we choose rise to the challenge. This year was not different.

In our first classes these students were a bit nervous and quiet but as they became adjusted and relaxed they began to have fun with the language and the rest of us.

This is what is so hard to realize for many people—speaking English isn't just a commitment to studying; it's a commitment to trying to enjoy using the language.

Students' smiles became brighter even as the English and our challenges became more difficult.

When we arrived in Arlington we were in a different country, with different people, with different ideas and styles.

It's not easy to try to change or challenge your ideas, but that is what it means to travel and exchange culture.

These students tried so many new things, from teaching Japanese culture to 6 year old Americans, to learning American history and culture in the streets of Boston, and most impressively by bonding with their host families on their own.

The people of Arlington are so happy that our students battled with smiling faces to make themselves understood.

They made their own families overseas and they have made the world a smaller, and yet better, place by doing so.

I am so proud of them. We should all be so proud.

Thank you.

Captain Conor Boyle

毎年、このプログラムに応募してくる生徒達は本当に素晴らしいです。アーリントンに訪問する生徒を選ぶことは容易ではありません。しかし、自ら挑戦しようとする生徒の姿を目にすることは毎年恒例のことです。今年も例外ではありませんでした。

アーリントン学習会最初の授業では、生徒達は少し緊張していて、口数も少なかったのですが、授業に慣れ、リラックスしていくうちに、私達と英語を話すことに楽しみを見出し始めました。

英語を話すことはただ単に勉強に取り組むことではなく、言葉を使って楽しむことであると実感するのは、多くの人にとっては難しいことです。

学ぶ英語が難しくなり、挑戦が困難になればなるほど、生徒達の笑顔はいきいきと輝いたものになりました。

アーリントンに到着した時、全く違う生活習慣や考え方をを持った、全く違う人々が暮らす国に私達はいたのです。

決して簡単なことではありませんが、旅をして、文化交流をすることの意義は自分自身の考え方を変えようと挑戦することにあります。

生徒たちは、沢山の新しいことに挑戦しました。6歳のこどもたちに日本の文化を伝えたり、ボストンの街の中でアメリカの歴史と文化を学びました。そして何より、ホストファミリーたちと自分自身で関係性を築いたのです。

生徒たちが、なんとか自分達のことを理解してもらおうと一生懸命になっている姿を見て、アーリントンの人々は喜んでいました。

生徒達は海外に新しい家族ができたことで、世界を身近で、より良いものとする事ができたのです。

私は、生徒達を誇りに思います。私達皆、誇りに思うべきです。

団長 ボイル・コナー

## 目 次

### はじめに

#### I 訪問の部

- 1 訪問団員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P6
- 2 訪問日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P7
- 3 生徒感想文・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P9
- 4 アーリントンだより・・・・・・・・・・・・・・・・ P20

#### II 来訪の部

- 1 訪日団員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P39
- 2 訪日日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P40
- 3 訪日団引率者挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・ P42
- 4 訪日団生徒挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・ P44
  
- 5 アーリントン訪日団友好紀行・・・・・・・・ P45

# I 訪問の部

## 1 訪問団員名簿

### 中学生訪問団

番号	学校	学年	生徒氏名	よみ
1	長岡中学校	2	野中 詩織	のなか しおり
2	長岡中学校	3	重国 有希	しげくに ゆき
3	長岡中学校	3	藤田 葉奈	ふじた かな
4	長岡中学校	3	窓場 太加伸	まどば たかのぶ
5	長岡第二中学校	2	村山 美露	むらやま みろ
6	長岡第二中学校	3	長野 太紀	ながの たいき
7	長岡第三中学校	2	中島 有菜	なかじま ゆな
8	長岡第三中学校	3	畑山 雅陽	はたやま まさはる
9	長岡第三中学校	3	松本 歩実	まつもと あゆみ
10	長岡第三中学校	3	丸本 汰知	まるもと たいち
11	長岡第三中学校	3	中山 恵里	なかやま えり
12	長岡第四中学校	2	緒方 惟大	おがた これひろ
13	長岡第四中学校	3	藤井 瑛士	ふじい えいじ
14	長岡第四中学校	3	吉田 菜那	よした なな
15	長岡第四中学校	3	勝見 謙介	かつみ けんすけ
16	長岡第四中学校	3	中山 遥瑛	なかやま はるあき
	外国語活動指導員	引率	水野 香里	みずの かおり
	国際理解教育交流指導員	引率	藤原 麻紀子	ふじわら まきこ
	英語指導助手	団長	ボイル・コナー	ぼいる・こなー

### 高校生訪問団

番号	学校	学年	生徒氏名	よみ
17	西乙訓高校	2	中地 結璃愛	なかし ゆりあ
18	西乙訓高校	2	釣 真理花	つり まりか
19	西乙訓高校	2	中村 葵	なかむら あおい
20	西乙訓高校	2	森永 月乃	もりなが つきの
21	西乙訓高校	2	諸江 薫奈	もろえ ゆきな
	西乙訓高校教諭		大道 昭裕	おおみち あきひろ

## 2 訪問日程

月 日 (曜日)	時 刻	行 程
4月23日 (火)	11:00 14:40 16:00 18:15 18:05	長岡京市 発 伊丹空港 発 成田空港 着 成田空港 発 ボストン空港到着後、各ホストファミリー宅へ移動
4月24日 (水)		ウィルソンファームツアー フェンウェイパークツアー フェヌエルホールにて昼食 州議事堂見学
4月25日 (木)		クジラ観測船に乗船 クインシーマーケットにて昼食 ボストンコモン 散策 (フリーダムトレイル) 教育委員会議に出席 (生徒リーダーのみ)
4月26日 (金)		ブラケット小学校訪問 交流プログラムに参加 (折り紙、習字、けん玉) ハーバードスクエアにて昼食 ハーバード大学見学
4月27日 (土)		ホストファミリーディ レッドソックス試合観戦
4月28日 (日)		日本祭り参加 ホストファミリーディ
4月29日 (月)		オトソン中学校訪問 交流プログラムに参加 学校カフェテリアで昼食 アーリントンケーブルテレビ局訪問 イーグルスデリにてハンバーガーの夕食 タウンミーティング見学
4月30日 (火)		アーリントン高校訪問 交流プログラムに参加 高校カフェテリアで昼食 ジェイソンラッセルハウス見学 アーリントンセンターでショッピング
5月1日 (水)		レキシントン・コンコードツアー フェアウェルパーティ
5月2日 (木)	13:50	ボストンローガン空港発

5月5日(土)	16:30	成田空港 着
	18:25	成田空港 発
	19:50	伊丹空港 着
	20:30	伊丹空港 発
	21:00	長岡京市 着

### 3 生徒感想文

長岡中学校 二年 野中詩織

私はアーリントンの訪問で文化や言語の違いがあっても仲良くなれることを知りました。ホストファミリーの家の女の子と一緒に走って競争したり、卓球したりしました。

緊張していた私に質問してくれ、すごく気にかけてくれました。

私が話すのを待っていて、いつも優しく接してもらいました。ホストファミリーには本当に感謝しています。

さらに私はアメリカの「受け入れる姿勢」について驚きました。アメリカの人は目が合うと笑ってくれます。

これは難しいことだと私は思います。しかし、日が経っていくと自分から笑うようになりました。相手がどんな人でもまず笑って受け入れる。この姿勢は私にとってすごく嬉しいことでした。

次に私が驚いたことは「質問する姿」でした。オトソン中学校の生徒について回った時に驚きました。日本と比べて挙手が本当に多かったからです。授業の内容に疑問があったらすぐに質問する。なぜそうなるのか？と理由まで深掘りし、考える授業は本当にいいと思います。

私はこの訪問ですごく視野が広がりました。「こんなにも違うんだ」と驚きの連続でした。でも、日本とアメリカ共通して言えることは優しさだと思います。どの家庭にも温かみがあり、すばらしいなあと思いました。アーリントンで学んだ事を忘れないようにしていきたいです。

長岡中学校 三年 重國 有希

私は、十日間、アーリントンでホームステイを経験することで、自分自身の考え方の幅を広げることができました。

まず、私はたくさんの人柄に触れて、「感情表現の豊かさ」で日本人と大きな差を感じました。その中でも特に、愛情表現や友情表現はとても豊かでした。日本人は少し抵抗があったり、遠慮がちな人が多くて、初対面の人に壁を作ってしまうのだと思います。私が出会った人たちは、そんな日本人と違い、想像以上にフレンドリーでした。初めて出会った人はみんな笑顔で挨拶をしてくれて、たくさん教えてくれて、たくさん質問してくれました。また、私のホストファミリーも、「ゲスト」としてではなく、「家族」として私を迎えてくれました。そして、出会った時と別れるときに力強くハグをしてくれました。

日本には、おもてなしの心がありますが、その文化も大切にしつつ、特別扱いをし過ぎてしまうのではなく、私がそうしてもらったように、「家族」として、次は私が迎え入れてあげたいです。

また、私はこのプログラムから、改めて日本の良さを再発見することができました。十日間、住み慣れた日本から離れ、新しい文化に触れたからこそ気づけた良さだと思うし、だからこそ、これからは小さなことにも感謝して、「あたりまえはあたりまえではない」ということを頭に入れておかないといけないと思いました。

今回、私を温かく迎えてくれたホストファミリーには感謝の気持ちでいっぱいだし、このようなつな

がりができたことがとても嬉しいです。また、約半年間一緒に勉強してきたメンバーと学校や学年関係なく仲良くなれたこと、サポートしてくれた先生方や親、たくさんの出会いに感謝します。そして、いつまでもこのプログラムが続けばいいなと思います。

長岡中学校 三年 藤田 葉奈

私は今回のプログラムに参加して、自分の意見を相手に伝えること、伝える努力をすることの大切さを学びました。

英語で会話をするとすると、簡単には自分の思っていることが伝わらず、大変なこともありました。例えば、一緒に折り紙を折っているときに、単語が思い浮かばず、ほとんどジェスチャーだけになってしまうこともありました。それでも、今、自分がどうしてほしいのか、何を求めているのかを伝えなければ、コミュニケーションも取れません。そのため、言葉やジェスチャー以外にも表情にも、気を付けるようにしました。そのほうがより相手にこちらの思いが伝わったと思います。

これらの事を通して言葉だけではなく、言葉やジェスチャーも使ってコミュニケーションをとることが大切だと思いました。普段の会話でも、Yes や No というだけでなく、手や顔を振って伝えました。それも相手に自分の意思を伝える良い方法だと思っています。

英語しか通じない相手に、どうしたらより伝わるのかを考えながら過ごした10日間は大変でしたが、とても充実していました。このアーリントンでの経験をそのまま日本でも使えるとは限りませんが、何らかの形で今後の生活に活かしていけたらいいなと思います。

長岡中学校 三年 窓場 太加伸

今回アーリントンに行き、色々違ったところが発見できました。まず生活面で違ったところは、お風呂にはあまり入らずに、シャワーだけということです。そして英語で困った時はあまりなくて、やはりそんなに難しい英語の文の構成を作ろうとしても、もっと簡単な英語で話を通じることがわかりました。特に思ったことが、日本と違い、盛り上がり方など、やはりちょっとしたことでも、見方などイメージが変わってくるということがわかりました。そして日本とアメリカの価値観を比べると、自分はアメリカに住みたいと思いました。なぜなら、自由度などそういった面でとても良いと思ったからです。食事の面では常にフォークとナイフでした。ただ僕が作った料理を出したときはみんなお箸を使ってくれました。面白いなと思った部分は逆に僕がホストファミリーに英語を解釈してこちら側が日本語を教えるという面白い一面もありました。そして家族ではないけど、家族のように接してくれました。

アメリカの文化を自分の学校に伝えることができましたし、日本の文化をアメリカにも伝えることもできました。今ふと思うと10日間は都と絵も短いと思いました。いま日本に住んでいると、アメリカがとても恋しくなる、そう思いました。けれども世界中全体が同じ文化だと面白くないので、やはり国一つ一つが違う文化を持つてるのはとても良いことだと自分はわかりました。それによりお互いの食べ物も違って面白い交流ができると思います。

## 長岡第二中学校 村山 美露

私はアーリントンで過ごした十日間で多くのことを学びました。その中でも印象に残っている二つを紹介します。

一つ目はコミュニケーションにおける身振り手振りの大切さです。半年間身振り手振りを添えた話し方を学んできて、私自身も一生けん命覚えてきました。しかし、実際に使えるかどうかすごく心配でした。現地で生活してみると、当たり前のように身振り手振りをするので私も自然に身振り手振りをするようになり、初めの不安はどこかに飛んで行ってしまいました。

二つ目は、私が思っていた以上に日本の文化が浸透していたことです。ジャパンフェスティバルがあることにも驚いたし、そこでは日本のアニメのコスプレや着物を着ている人が多くいました。また、私はホストファミリーへのお土産として、抹茶のお菓子やラムネ、グミなどをあげました。すると、私のホストファミリーは抹茶を知っていてとても好んで食べてくれました。さらに、ラムネに掲載されていたキャラクターの名前まで知っていました。

この十日間は、常に英語に囲まれている生活であったため、毎日がとても楽しく勉強になりました。異文化を学ぶとともに、日本の文化も広がっていたことをすごくうれしく思うし、日本の文化をもっと伝えることができたことに私は誇りを感じました。今回の経験は私の中で一生心に残ることであり、キラキラと輝く宝物になると思います。

## 長岡第二中学校 三年 長野 太紀

時の流れは意外と早いもので、アーリントン訪問から帰ってから数日がたちました。九月に講習が始まり、四月に訪問するまでの約半年間なんて、一か月も無いようでした。

四月二十二日の夜、僕は緊張と期待を胸に目を閉じました。でも、やはり不安でした。言いたいことが伝わらなかったらどうしようとか、体調を崩してしまったらどうしよう、事故にあったらどうしよう、ホストファミリーはどんな人たちだろう、上手くやっていけるのだろうかなどと、たくさん思い浮かんできました。

四月二十三日、バスに乗り飛行機に乗りアメリカに着いてホストファミリーに会い、夜ご飯を一緒に食べていた時、不安のうちの五割は希望に変わりました。そのおかげでその晩はとっても気持ちよく眠れました。

日中はいろんなところを見学、観光して、あらゆるところにある英語に、最初少し困りましたが数日で慣れて、気にならなくなりました。慣れてもやはり、毎日が刺激的でした。みんなといるとき以外は英語しか聞こえないし、文字も英語、学校の授業も英語と、日本の生活と全く違う生活で、たくさんのことを吸収できました。

今回の訪問で、僕は楽しんで、学んで、とても有意義な十日間を過ごすことができました。僕にはこの前まで目標や夢はありませんでした。でも、今回できたんです。それは、アメリカかカナダで英語を勉強して、通訳士のような、英語に関係する仕事することです。今回の経験を将来に活かして、頑張っていきます。

## 長岡第三中学校 二年 中島 有菜

私はこの十日間、長岡京市中学米国短期交換留学という形で、とても貴重な経験をさせてもらうことができました。この十日間は私にとって深く心に残る時間となりました。

そんな十日間で私は、「私達、人と人とが関わっていくにはこれが大切だ」と思ったことが二つあります。

一つ目は自分から話しかける勇気です。なぜなら、私が伝えたいことをうまく表せないでいた時、ホストファミリーは笑顔で「いいから言ってごらん」と言って頑張って聞こうとしてくれました。そこからの私は、上手く表すことがすべてではなく、伝えたい気持ちを持つことと伝えようとするのが大切だと思ったからです。

二つ目は笑顔です。なぜなら、私が緊張や不安の中、様々な場所を訪問したとき、行く先々で多くの人が笑顔で迎えて下さったからです。その笑顔のおかげで私は緊張や不安が解け、笑顔で訪問を終えることができました。

これらの事から私は、使う言語に関わらず笑顔で積極的に人と関わっていきたいと思いました。次は、アメリカから訪問団が来られるので、その時には、自分がアメリカで、してもらったように迎え入れたいと思います。

最後に、このメンバーで行けて、こんな素敵な体験ができて、本当に良かったです。今回の訪問に関わっていただいたすべての皆様、本当にありがとうございました！

## 長岡第三中学校 三年 畑山 雅陽

僕はこのアーリントンプログラムでアメリカの文化に触れて、日本との文化の違いについて学びました。アメリカに着いた時に挨拶としてハグをしたことに驚きました。日本人はハグに抵抗が多いので、あまりする文化が無いけど、いざ自分がやってみて思ったことは「これからよろしくね。」みたいな感覚でした。

最初は英語が通じるか心配であまり話せなかったけど、僕の話をつかってくれようとホストファミリーが聞いてくれてすごく嬉しかったです。僕ら日本人は英語が正しく話せているかと考えてあまり話せないけど、アメリカで思ったことは、自分の言いたいことを積極的に言うコミュニケーション力と英語に怖じ気付かないガッツが必要だと思いました。

中学校に訪問した時に驚いたことは英語以外にもほかの言語を学んでいたことが羨ましかったです。高校も中学校も自分がやりたい事をして興味があることを伸ばすという教育の仕方と日本と違うなと思いました。

野球を観戦した時にとても感動したことがあります。それは、国歌を斉唱するときに全員が立って歌っていました。僕は自分の国への愛国心や誇りが伝わってきてとても感動しました。

アメリカに行って学んだ事はレディーファーストの精神と LGBT への考え方です。偏見があったりするけど、それに寛大な気持ちで接していこうと思いました。

日本に帰るときに、アメリカに着いた時に不安だった自分に優しくしてもらったことや離れてしまう

悲しさで涙が溢れました。

最後に、このプログラムで自分のことは自分でする自主性が少しついたと思います。僕はまたアーリントンに戻って、自分の成長した姿をホストファミリーに見せたいと思いました。

長岡第三中学校 三年 松本 歩実

去年からアーリントン訪問団に応募していて、今年受かったという知らせを受けた時は本当に驚いたし、とても嬉しかったです。そこから約半年間みんなで準備をし、ついにその日が来ました。海外に行くのなんて初めてだし、不安と緊張と期待が入り混じったような気持ちでした。

ボストンに着いた時は、まず街並みの美しさに感動しました。何もかも英語で書いてあり、日本とは雰囲気が違いました。ホストファミリーと初めて会った時は、何を話したらいいかわからないし、みんな早口だし、日本でできていたのとはイントネーションも違いました。なので聞き取るのはとても大変で難しかったです。でも、毎日毎日英語を聞いているうちにだんだんと聞き取れるようになってきたし、少しずつですが自分の話したいことを話せるようになってきました。自分はそれがすごく嬉しかったです。自分たちはボストンのいろんなところに行ったり、小、中学校、高校を訪問しました。内容を聞き取ることは容易ではありませんでしたが、とてもアメリカの文化を体験することができました。中でも学校は、日本と比べ自由でとても良い所でした。自分もそこに行きたいぐらいです。

自分がアーリントン訪問を通して学んだ事は、世界は広いということです。日本とは言語も文化もまるっきり違う場所が、この世界にはまだまだあるんだと考えました。日本だけにとらわれていたら、引きこもっていたらダメだと思います。そして、将来のやりたいことが少し見えてきました。自分は将来海外で働きたいです。それらにおいても、今回のアーリントン訪問はとても意味のあるものでした。リスニング力も向上したし、異文化も体で感じられたし、何より楽しかったです。学んだ事を日々の生活にも生かし、将来に向けて一歩ずつ進んでいこうと思います。変わったかどうかは分かりませんが、とてもいい体験でした。ありがとうございました。

長岡第三中学校 三年 丸本 汰知

私がアメリカに渡り、特に印象的だったことをいくつか書こうと思います。

まず私が驚いたことは、アメリカの食べ物です。サイズが大きいのはもちろん、味が日本の物に比べ濃いものも多く、ドーナツなどのお菓子には色が水色のものや、濃いピンク、黄色といった、食品添加物なしでは作ることはできない色の食べ物もありました。

また、食べきれない食べ物や、まだ食べる箇所の残った食べ物をアメリカの人々は平気で捨てることには「食べきれないのになぜあれほど大きな量のご飯を出すのだろうか」と疑問に思いました。

もう一つ驚いたことが、アメリカで過ごす時間の流れ方がとてもゆっくりしていることです。私のホストファミリーや、私の見たアメリカの人々は毎日をととてもゆっくりと過ごしていて、外国の人は時間にルーズとよく聞きますが、「毎日ゆっくりしていたらそりゃそうなるわ」と思いました。

アメリカで特に思ったことは、学校で習う英語と英会話は全くの別のもということで、学校で習う難しい文法などほとんど会話には登場しません。それでも日本で教わる英語に意味がないわけではありません。ですが両方の英語に共通して言えることは、単語さえ知っていれば、ある程度までは単語を並べるだけでも通じます。

私は今後、これらの新たな発見をこれからの生活で活かしていこうと思います。また、周りの人々にも今回、アーリントン訪問団員として経験したことを伝えていこうと思います。

## 長岡第三中学校 三年 中山 恵里

私にとって今回のアーリントン訪問は初めての異文化交流であり、出発直前は不安な気持ちでいっぱいでした。

しかし現地のホストファミリーや学校の生徒、先生の温かさに触れるうちにどんどん楽しさが感じられるようになりました。私は初め、自分の英語力にまったく自身が無くてホストファミリーとの会話もあまり続かなかったので、「日本に帰りたい」と思っていました。でも日にちを重ねるごとにだんだんと会話が続くようになり、食事など家で過ごす時間も楽しいと思えるようになりました。ホストファミリーも私に合わせて少しゆっくり話してくれたり、ジェスチャーを交えて話してくれたりして、とても嬉しかったです。

私がアーリントン訪問で一番印象に残り、成長できたと思う事は、ためらわずに自分の意見がはっきり言えるようになったことです。アーリントンに行く前は、「相手がどう思うか」などを先に考えてしまい、自分の意見と違うことを言ったりする時がありました。でもアーリントンの人々は自分が思ったことをはっきり相手に伝え、言われたことはしっかり受け止めてお互いの意見交流をしていました。また、上手く伝えられなくても伝えようと努力することが大切であることも学びました。ホストファミリーは私が言葉に詰まってしまった時も、私が何を伝えようとしているのか必死に考えて理解してくれました。たとえ文法がぐちゃぐちゃでも理解しようとしてくれる姿に、私はすごく安心感を覚えました。

私はこの短期留学でたくさん学び、成長することができました。それは一緒にアーリントンへ行った仲間たち、先生方、ホストファミリーや現地の人々、どれか一つでも欠けたらできなかったことです。私はアーリントンに行けて本当に良かったです。ありがとうございました。

## 長岡第四中学校 二年 緒方 惟大

僕はずっとアメリカやヨーロッパなどの外国に憧れていたもので、このプログラムに応募しました。実際行ってみると、そのスケールやボストンの街の美しさに圧倒され、日本から本や地図で見っていた場所に立っていることを実感しました。今から僕がアーリントンを訪れて感じたことについて少し紹介します。

まず一つは、アメリカの人々がとてもフレンドリーだということです。僕はホストファミリーと会う前、少し緊張していましたが、彼らは、とても気さくに話しかけてくれ、すぐに本当の家族のようにな

れました。またホエールウォッチングでは、僕たちがあっち向いてホイというゲームをやっていると、「それは何？」とカナダから来た人たちから尋ねられて、今では連絡を取り合う友達になりました。さらに最後のパーティーでも、フリスビーやサッカー、ダンスなどをきっかけに五人くらいの友達を作ることができました。この友達とは、「また会おうね」と話しているところです。このようにアメリカの人々は本当にフレンドリーで、僕にはたくさんの友達ができました。

もう一つは、レッドソックスの野球観戦が非常に楽しかったということです。試合自体も接戦でとても面白かったのですが、間にポップな音楽が流れたり、チャンスの時は、ウェーブなどで派手に盛り上がったり、日本のプロ野球にはない面も楽しめました。試合の終盤の方は後ろの席から前から二列目の席に移動することができ、チャンスで盛り上がった会場のテンションを選手の間で感じて楽しむことができました。

今回のアーリントンプログラムでアメリカの良さをよく知り、外国への興味がさらに深まりました。

だから、僕はもっと語学や外国の文化などを学んで、高校や大学でも留学したいです。そして将来的には外国に住むか、たくさん外国に行きたいです。

#### 長岡第四中学校 三年 藤井 瑛士

僕がアーリントン訪問で学んだ事は、アーリントンの方々の心が広いことと、土地が広いということです。

アーリントンでホームステイをさせてもらって、人々が優しいことに気づきました。アメリカ人は不親切な人や悪い人が多いというイメージを持った人は僕のクラスにも少なからずいて、実際に僕もそうでした。しかし、それは大きな間違いで、ホストファミリーは家族のように接してくれました。日本人は人に対して関わらず、そっとしておくことが優しさだと感じている人もいますが、アーリントンの人々は困っているときに自ら話しかけてくれて、とても助かりました。

また僕がアーリントンの風景を見て初めて思ったことは、土地が広いということです。民家にはほとんどすべて庭がついていて、道路は車道も歩道も広く、どこでも安心して歩けました。また土地が多くあるため、自然が多く社会と共存していました。アーリントンを抜けたボストンでも、高層ビルが立ち並ぶ中、街路樹やロータリーの中央の木など自然が多く目に入りました。

アーリントンで学んだこれらの事を、自分のこれからの生活にできるだけ多く活かしたいと思いました。

#### 長岡第四中学校 三年 吉田 菜那

「帰りたくない。」私はアーリントンにいる間何度もこう思いました。私にとってこの十日間は本当に楽しくて充実したものになったからです。そして、たくさんのことを学ぶことができました。その中でも「積極性」と「助け合い」は特に大切だと思いました。

「積極性」はホストファミリーとの会話で強く思いました。最初は自分の英語が通じるかとても不安

でしたが、どんどん自分から話さないともったいないなと思いました。ホストファミリーは私が理解できるまで、何度も伝えようとしてくれたので、私もちゃんと伝えたいという気持ちになりました。まずは話そう、伝えようという姿勢が大切なんだと思いました。そして、自分からチャレンジするのは勇気がいるけど、その分自分の成長に繋がるので、これからもいろいろなことに積極的にチャレンジして、成長していきたいと思いました。

「助け合い」は、街中にいるときや、ホストファミリーとの生活、訪問団の仲間といるときに思いました。ホストファミリーは私が困っているとすぐに話を聞いてくれて、助けてくれて、優しさや心の広さを感じました。訪問団の仲間も、日本と勝手が違い、分からないことがあるときに相談に乗ってくれてとても助けられました。また、自分が助けられてばかりでなく、自分も誰かを助けられることをしたいと思いました。

最後に、私一人だと絶対にこんな体験は出来なかったし、たくさんの人に支えられているんだと感じました。また、今回の体験を通して、「もっと英語力を高めて長期留学をする」という新たな目標もできたので、十日間で学んだ事を忘れず、目標を達成するために活かしていきたいと思います。

長岡第四中学校 三年 勝見 謙介

僕は今回のアーリントン訪問で主に2つのことを学びました。

まず一つ目にアメリカと日本の違いでした。具体的に言うと教育です。授業を見せてもらってほとんどの授業がグループ活動か個人での取り組みでした。個人だとしても隣の人と話し合いながら取り組んでいました。机も常にグループ隊形で一人一台のパソコンもありました。この光景を見て日本とは対照的だと感じました。教育に関してはアメリカの方が優れていると知り、意外だなと思いました。

二つ目は日本語を使わずに英語で日常生活を送ることの難しさです。普段授業以外で使うことのない英語で生活を送ることは予想以上に難しく大変でした。また、日本とアメリカのスタイルも異なるので会話をどう展開していけばいいのかわからなかったのが大変でした。相手の言ってることが分からなくて結局答えられない、言ってることは分かってても yeah としか言っておいて、その先の会話ができなかったりしたことが多くありました。それでも少しずつ会話が弾んできて自分からも話せるようになっていきました。

今回アーリントンへ行ったことは貴重な体験でした。目標であったコミュニケーション能力も高められました。この学んだ事を活かし、今後の生活に役立てます。また、次、アーリントンへ行く人に鳴子踊りもぜひ教えて、貴重な経験をしてもらいたいです。

長岡第四中学校 三年 中山 遥瑛

思い返してみれば、本当に一瞬の十日間だった。しかし、その十日間はとても濃く忘れられない思い出になった。それは、多くの人達が私達を支えてくれたからこそ作ることができた。ホストファミリーはとても親切で異文化の生活で慣れない私たちに寄り添ってくれた。先生や、現地の生徒の方々も私達

にアメリカの文化や習慣を熱心に教えてくださった。それらのことにととても感謝している。

私はこの十日間、アメリカと日本を比較し、相違点や共通点、またそれらの良さを考えていた。私が最も驚いたことは、アメリカの学校だ。私が訪れたすべての学校に共通していることは授業中でのコミュニケーションがとても多いことだ。先生と生徒はもちろん、生徒同士での会話も多かった。座席の向きもグループ活動に適しており、どの生徒も自分の意見をもって交流していた。これはとても面白く、授業が楽しく感じた。

私がこの十日間で学んだ事は二つある。一つ目は、その場の雰囲気は自分を含め、みんなで盛り上げることで楽しくなるということだ。フェンウェイパークでの野球観戦、訪れた学校のセレモニー、日本祭り、すべて自然に笑顔になる雰囲気だった。それは、個人で作るものではなく、会場全体で団結してつくられるものだ。周囲の人達と誘い合って盛り上げることはとても大切だと学んだ。二つ目は悔いを残さないこと。絶対会いたいと思った人がいたら、難しくてもあきらめなかった。絶対行きたい場所には必ず連れて行ってもらった。もし諦めていたり、妥協していたら、この留学は後悔で終わっていただろう。

私は本当に感謝している。たくさんの方が支えてくれていると改めて実感した経験になった。

## 西乙訓高校 2年 中地 結璃愛

ハイ、ユリアって自分の名前を呼ばれるたびに嬉しかったり、ちょっとだけドキッとしたり。日本からアメリカに向かうときは、これからどんな楽しいことがあるのだろうというワクワクと、上手く話せるかな、歓迎されるかなというハラハラで、13時間の飛行機の中で、頭の中が冷静に落ち着けることはありませんでした。初めてホストファミリーに会えた時、数週間前まで知らない人で会ったこともないし、数回メールをしたくらいなのに、私はすっごく大切な宝物を見つけた時みたいに言葉がでなくてグッとくるものがありました。そんな彼らと過ごした十日間の中には数えきれないくらいの幸福感と感謝がうまれました。

朝ごはんの時、口いっぱいシリアルを詰めながら話しかけてくれる8歳のアレックス、毎日送り迎えしてくれてた時にする世間話、何もかもが新鮮で楽しくて常に笑顔だったなと思います。でも十日間の中には落ち込んだこともありました。それはホストマザーが入院してしまったことです。心配をかけたくなかったのか、詳しくは教えてくれませんでした。そんな状況もわからない中、私の中で心配と不安が混ざって、アレナがしんどくなったのは私がここに来たからかなとか、お手伝いが足りなかったからかなとか後悔がでてきて胸が痛くなりました。でもそんなホストとお別れするとき、彼女は私にいつでも帰ってきてねと言ってくれました。その言葉で私の中のもやもやは消えて、とたんに別れに対して悲しさがあふれて大泣きしてしまいました。

アメリカに来て、たった十日間でこんなにもかけがえのない大切な人と出会えるなんて思ってなかったし、英語だけでなく人柄や愛を学べたと思います。

## 西乙訓高校 2年 釣 真理花

私がホームステイをして一番感じたことは、LGBT の価値観です。日本では、LGBT に対しての正式な制度や法律が無く、それらに対しての偏見はまだ多くあります。私のホストファミリーはお母さんが二人だったのですが、そのことについて話す機会がありました。

その時彼女たちが私に言った言葉が私の心にとても響きました。「人が人を好きになり愛することは当然。ただ愛する人が異性か同性というだけ。それは何があろうと誰かに制限されるものではなく、ましてやされてはいけない。」

そして彼女たちは日本では個性を出すということはあまり周りからよく思われなかったり、自分が良ければよかったり、一度のミスを深く考えすぎているという印象がある、とも言っていました。

私は日本人が昔から持つ様々な固定概念をなくしていき、相互に良い影響を与え合い、社会全体で関係を構築していく必要があると思いました。そして、そうした世の中を自分から進んで作っていくべきだと感じました。

## 西乙訓高校 2年 中村 葵

今回のアーリントンへの留学を経験させてもらって、普段の生活と何がどのように違うのかわかったり、気づいたりするのがとても楽しかったです。私たちが当たり前だと思っていることが向こうでは当たり前じゃなくて、すごく珍しいことだということもわかりました。

例えば、私たちは食事をとるときに残さず食べるのが普通で、アメリカでは残さず食べると、どんどん出てきたりしたのでとてもビックリしました。些細な気づきだけど、こんなところにも違いがあって驚きもありました。

ホストファミリーも、お客さんじゃなくて本当の家族のように接してくれて、とても嬉しかったし、本当の家族のように思えることができました。日本についてたくさん質問をしてくれて、日本に興味を持ってくれていて、たくさん話ができたことが一番嬉しかったです。でも私の英語力がまだまだなのが実感できて悔しく思いました。伝えたいことが伝わらなかったり、ホストファミリーたちの言いたいことが分からなかったりして、自分の英語力を鍛えてまた再開した時に、今よりも成長した姿で話して、十日間ではできなかった話をしたいです。

10日間という限られた中でいろんな施設を訪問して、アメリカの生活や文化を体験したなかで、私たちが見習わないと、と思う事もあってすごく勉強になりました。この経験でもう一度留学して、もっと自分を成長させたいと思いました。

## 西乙訓高校 2年 森永 月乃

中学生のころから留学することは私の夢でした。今回その夢をもって、たくさんのことを学ぶことができました。その中でこれからに生かしていきたいと強く思う所は二つあります。

まず一つ目は、英語が伝わる嬉しさです。日本にいるとき、私は英語が伝わるのがうれしいと考えることはあまりありませんでした。しかし、現地の人々の英語は速くて、なめらかなので聞き取りにくかった時もあり、自分の伝えたい言葉が思い浮かばなかった時もありました。そんな自分の語彙力の狭さには少し悲しかったのですが、ちゃんと理解しようと聞いてくれる人が多く、私は、「英語が伝わるって嬉しいな、もっといろんな人と話せるようになりたい。」と思いました。

二つ目は、たくさんの人との出会いです。私はホームステイが初めての体験だったので、ホストファミリーへの不安が一番大きかったです。でも実際会って話してみると、少し緊張は残っていたものの、ホストファミリーはすごく優しく接してくれて、英語をゆっくり話してくれたり、伝え方を変えてくれました。そんな優しさに救われて、十日目にお別れが寂しくなるくらい良い時間を送ることができました。

一緒に留学に行く事ができたメンバーも体調を崩しているときに声をかけてくれたり、薬をくれる優しいメンバーばかりだったので、とても支えになりました。ほかにもたくさんの生徒や先生に出会い、自分の視野を広げることや考え方を見直すきっかけができたので、人とコミュニケーションをとって学ぶことはとても大切だと思いました。

この二つのことを学び、普通に旅行するのでは学べないことを学べてよかったと感じました。私はずっと抱いていた夢を叶えることができたと思うのと同時に、また留学に挑戦したいと思います。

## 西乙訓高校 2年 諸江 薫奈

私が今回、このアーリントンプログラムに参加して学んだ事は、自分の意思を伝えることの大切さです。アーリントンに行く前の私は人に合わせたり、あんまり自分の意思が伝えられていませんでした。ですがアメリカに行くくと遠慮してばかりではだめで、自分から動くことの大切さを改めて学びました。日本でも意思を伝えるのは必要なことだと言われているけど、なかなかできていない自分にはすごくいい刺激になりました。他にもアメリカに行く前は、自分の英語が伝わるか不安だったけど、それよりも自分が相手に伝えようとする気持ちが大切だなと感じました。アメリカに実際行ってみると、自分の英語力の足りなさを痛感しました。なので、これからは英語力をもっと高められるように日々勉強を頑張ろうという励みにもなりました。

アーリントンプログラムに参加できたことで、アメリカの文化を知ることや、日本文化を伝えることができました。そのおかげで自分の中で世界が広がり、素敵な経験となりました。ただ旅行に行くだけではこんなに交流できなかったと思うし、ホストファミリーにもすごく感謝しています。夏にアーリントンの人が日本に来る予定なので、アメリカでよくしてもらった分、しっかりおもてなしをしたいと思います。日本の良さも伝えられるようにしたいです。

今回の訪問ではたくさん学べて、楽しみました。それは周りのいろいろな人のおかげだと思うので、感謝の気持ちを忘れないようにしたいです。貴重な経験ができてとても良かったです。

## Journal From Arlington, Boston

長岡京市→伊丹空港→成田空港→ボストン→アーリントン→各ホームステイ先へ

**全員元気にボストン空港へ到着しました！**



### ① たくさんの方々に見送られ、いざ出発！

恵まれた天候の中、中小路市長はじめ、校長先生、保護者の方々など多くの関係者のみなさんに見送られて、生徒たちは全員元気にボストンへ向けて長岡京市を出発しました。「ついにこの日がやってきた！」とバスの中では皆、引き締まった表情で注意事項に耳を傾け、現地で披露する Sweet Caroline や Believe などの歌を皆で合唱しながら伊丹空港に向かいました。



帝産バス駐車場にて

### ② 伊丹空港から成田空港を経由して…いよいよボストンへ！

空港では、手荷物検査、セキュリティーチェック、出国審査などさまざまな手続きを全員がクリアして皆、一安心でした。初めて飛行機に乗る生徒はさぞかし緊張したと思いますが、機内でもみな騒いだりすることなく、しっかりとマナーを守っていました。



成田空港にて

### ③ ついにボストン到着！

入国審査では指紋及び顔認証システムを皆が経験しました。審査前の生徒の顔は少し硬いものがありましたが、ここも全員無事にクリアしました。やはり、言語が英語に切り替わるこの瞬間というのは、生徒たちもいよいよ日本を離れて異国の地にやってきたのだと、心新たな気持ちになったことだと思います。

ボストンも恵まれた天候の中、コーディネーターのジョアンさんとその娘さんの出迎えがあり、全員で記念撮影をしました。ジョアンさんは **American Hat** を用意してくれており、皆の高揚感もどんどん高まっているのが手に取るようにわかりました。そしてバスに乗り込み、ホームステイ先の方々が待つジョアンさんの家に向かいました。バスの中は長旅の疲れも全く感じさせないぐらいに、生徒たちは笑顔、笑顔で歓声があふれていました。



バスの中で

### ④ 待ちに待ったホストファミリーとの対面！

ジョアンさんの家には、多くのホストファミリーの方々が待っておられました。家の中に入るまでは皆緊張した面持ちでしたが、ホストファミリーの暖かい歓迎でその緊張感は一気に吹き飛び、みな笑顔、笑顔になりました。そして、生徒たちはそれぞれホストファミリーに連れられて各家庭に帰っていきました。ここからは生徒の力だけで英語を話していかなければなりません、とてもかけがえのない経験になるに違いありません。



## Journal From Arlington, Boston

レキシントン→フェンウェイパーク→クインシーマーケット→州議事堂

### 州議事堂でマサチューセッツ州の下院議員と記念撮影



#### ① レキシントン学習

朝、ホストファミリーとともにアーリントン高校前に集合し、アメリカ合衆国の歴史に大きな影響を与えた町、レキシントンへと向かいました。レキシントンはアメリカ独立戦争発端の町で、イギリス軍と植民地兵士軍との戦いの様子をコナー先生がとても分かりやすい英語で説明してくれました。生徒たちもコナー先生の英語に真剣に耳を傾けており、英語が理解できた喜びが表情にも表れていました。また、農夫であったミニットマンの銅像前で集合写真を撮りました。



コナー先生のレクチャー



ミニットマン像の前で記念撮影



周辺を散策

#### ② フェンウェイパークの見学

アメリカ大リーグレッドソックスのホーム球場であるフェンウェイパークを見学しました。球場内に入るやいなや、赤色の椅子と緑を基調とした球場の鮮やかな光景を目の当たりにし、皆歓声をあげていました。外野にそびえ立つ“グリーンモンスター”の上にある席にも案内してもらいました。4/27の野球観戦で練習してきたSweet Carolineをこの素晴らしい球場で歌うことを考えただけで皆心が高揚したに違いありません。

### ③ クインシーマーケットで昼食後、マサチューセッツ州議事堂へ

クインシーマーケットで昼食と買い物をした後、金色の玉ねぎの形をしたドームがシンボルの州議事堂を見学しました。議事堂の説明ということもあり、内容的には少し難しいのですが、ガイドさんからもわかりやすい英語で説明していただいたおかげで、生徒たちも理解が深まったと思います。また、ショーン・ガーバーリーマサチューセッツ州下院議員が登場され、皆と一緒に記念撮影を行いました。



州議事堂の前で

入口でもらった風船を手に

### ④ アーリントン高校前へ到着

州議事堂見学の後に、ポストンパブリックガーデンへ行き、スワンボートに乗る予定でしたが、あまりにも混雑していたため、キャンセルになりました。そのため、近くの鮮やかな芝生がひろがるポストンコモンで自由時間をとったあと、バスでアーリントン高校前まで送ってもらいました。アーリントン高校前に到着後は、迎えに来られていたホストファミリーの方と一緒に各家庭に戻って行きました。今日はレッドソックスのスタジアムと州議事堂がメインの行程でしたが、生徒たちにとっては新鮮な光景や情報ばかりだったので、学ぶこともとても多かったと思います。「異文化は人を大きく成長させる」という言葉を聞いたことがありますが、このアーリントンで経験するあらゆる異文化が生徒たちを一回りも二回りも成長させることを願っています。



球場のすぐ外でハイ、チーズ！



球場内で



内野席を独占！？



記者ルームに着席！

## Journal From Arlington, Boston

Whale Watching→水族館→フリーダムトレイル

### チャールスタウンにて



#### ① Whale Watchingへ

朝、アーリントン高校の前に集合し、ボストンの港へクジラ観戦（Whale Watching）に行きました。残念ながらクジラの姿はほとんどみられませんでした。また、船酔いする姿も見受けられました。陸に帰ってきてからは、1時間程度自由時間を入れた後に、水族館に皆で入りました。水族館ではとてもキュートなペンギンを見学し、有意義なひと時を過ごしました。



乗船前にポーズ！



乗船中に



水族館にて

## ② フリーダムトレイルへ。

水族館に続いて、フリーダムトレイルに出かけました。フリーダムトレイルはアメリカ独立に向けひた走った先陣ゆかりの家や場所などの史跡を結んでいる赤いライン。今回は途中の説明はありませんでしたが、最終チャールズタウンまでいい気候の中、皆で歩いて向かいました。」

明日はいよいよ小学校でこれまで練習してきたパフォーマンスを見せる日になります。一生懸命練習した踊り、歌を精一杯踊ってくれることを大いに期待したいと思います。」

## Journal From Arlington, Boston

ブラケット小学校 →ハーバード大学 → ショッピング

### ハーバード大学にて



#### ① ブラケット小学校での交流

生徒達はステイ先の人たちに連れられて、ブラケット小学校まで直接集合しました。図書館で待機した後、大勢の小学生に向かい入れられて体育館に入場。代表挨拶の後、プレゼント交換を行いました。ブラケット小学校から生徒一人ひとりにプレゼントが渡され、皆感激の面持ちでした。小学生からバイオリン演奏や日本の童謡「月」の見事な歌の披露がありました。そして、いよいよこちらに来て初めてのパフォーマンス。生徒たちは練習してきた歌と踊りを精一杯披露しました。踊りは途中で音楽が飛んでしまうというハプニングがありましたが、小学生の拍手もあり、このハプニングを見事に克服して最後まで踊り切りました！見ていて本当に胸が熱くなりました。小学生も生徒達の歌と踊りに大盛り上がりで、会場が一体感に包まれた素晴らしいパフォーマンスになりました。これからの生徒達のパフォーマンスが本当に楽しみです！！



プレゼントに大喜び！



小学生によるバイオリン



小学生の歌「月」



生徒による歌の披露



よさこいソーランの披露



皆でハイポーズ！

体育館でのパフォーマンスで盛り上がった後は、小学生がスクールツアーをグループ別で行ってくれました。スクールツアーが終了すると、ブラケット小学校でのメインのプログラムである「日本文化の交流体験」がスタートしました。交流では、4つのクラスに分かれて「折り紙」「けん玉」「習字」の3つを体験してもらいました。

小学生の反応もさまざまなため、その場でいろいろと指示を出して教えていかなければならなかったのですが、生徒達はとてもスムーズに指示をしていました。小学生も皆楽しそうに参加しており、けん玉で玉がうまくのったときは大歓声があがるなど、終始なごやかに交流が進んでいきました。ジェスチャーも交えながら英語で手取り足取り教えていく姿に、小学生もお兄さん、お姉さんのように頼る姿も多く見受けられました。



小学生に一生懸命日本文化を教える



小学生も大いに興味をもって交流に参加！

## ② ハーバード大学訪問

ハーバード大学を散策を兼ねながら見学しました。図書館や John Harvard Statue などをガイドの方と一緒に見学しました。非常に寒い中での見学でしたが、ハーバード大学にまつわるユニークなエピソードなどに生徒達は真剣に耳を傾けていました。見学終了後には、ハーバード大学生協でショッピングを楽しみました。



ハーバード大学の構内を見学

明日は週末で、午前中はホストファミリーデーとなっており、午後からはレッドソックスの野球の試合を見に行きます。雨が降らないことと、寒さが和らぐことを祈るばかりです。

## Journal From Arlington, Boston

ホストファミリーデー（午前中）→ レッドソックス観戦

### レッドソックス試合観戦後に長岡市友好代表団と記念撮影

～フェンウェンパークにて～



#### ① ホストファミリーデー（午前中）

午前中はホストファミリーデーで、各自がステイ先で過ごしました。ボーリングに行った人や、ホストファミリーの知り合いの家に行って皆で過ごした人や、ショッピングに出かけた人など、それぞれが各家庭で楽しいひと時を過ごせたのではないかと思います。また生徒たちが帰国しましたら、どのようにステイ先で過ごしたのかをじっくりと聞いてあげてください。

#### ② レッドソックスの試合を観戦

午後2時にアーリントン高校前に集合しました。今日から謙介くんも合流しましたが、待ち合わせ場所に現れた時には、皆から歓声があがり、大歓迎で迎え入れられました！バスでフェンウェンパーク（レッドソックスの本拠地球場）へ向かい、レッドソックスの野球観戦をしました。試合開始前に、今回姉妹都市盟約締結35周年記念行事でアーリントンを訪問している長岡京市友好代表団が球場内のアナウンスで紹介され、生徒たちも引率者も見に来ていたホストファミリーも皆、大盛り上がりでした。フェンウェイパークツアーは2日目に行いましたが、観客が大勢入った球場は独特で、ツアーの時とはまた違った雰囲気をかもしだしていました。試合開始前から熱気ムンムンの球場。試合が始まると体を動かしたり、立ち上がって応援したり興奮もマックスに。試合も手に汗握るシーソーゲームになり、結果2対1でレッドソックスは負けてしまいましたが、野球に興味がある生徒もそうでない生徒も皆、一丸となってレッドソックスを応援しました。



## Journal From Arlington, Boston

ボストンコモン → ホストファミリーディ

### ジャパンフェスティバルにて



ボストンコモンで行われたジャパンフェスタにて歌と踊りを披露しました。アーリントンとの姉妹都市締結35周年を記念して、訪問中の長岡京市友好代表団を代表して市長が初めに挨拶をしました（写真上）。

#### ① 絶好の天候に恵まれて

昨日はとても肌寒かったのですが、今日はどうって変わって暖かい気候の中、アーリントン高校からボストンコモンに向かいました。一昨日の小学校に続いて2度目のパフォーマンスの披露ですが、バスの中から盛り上がりは最高潮でした。

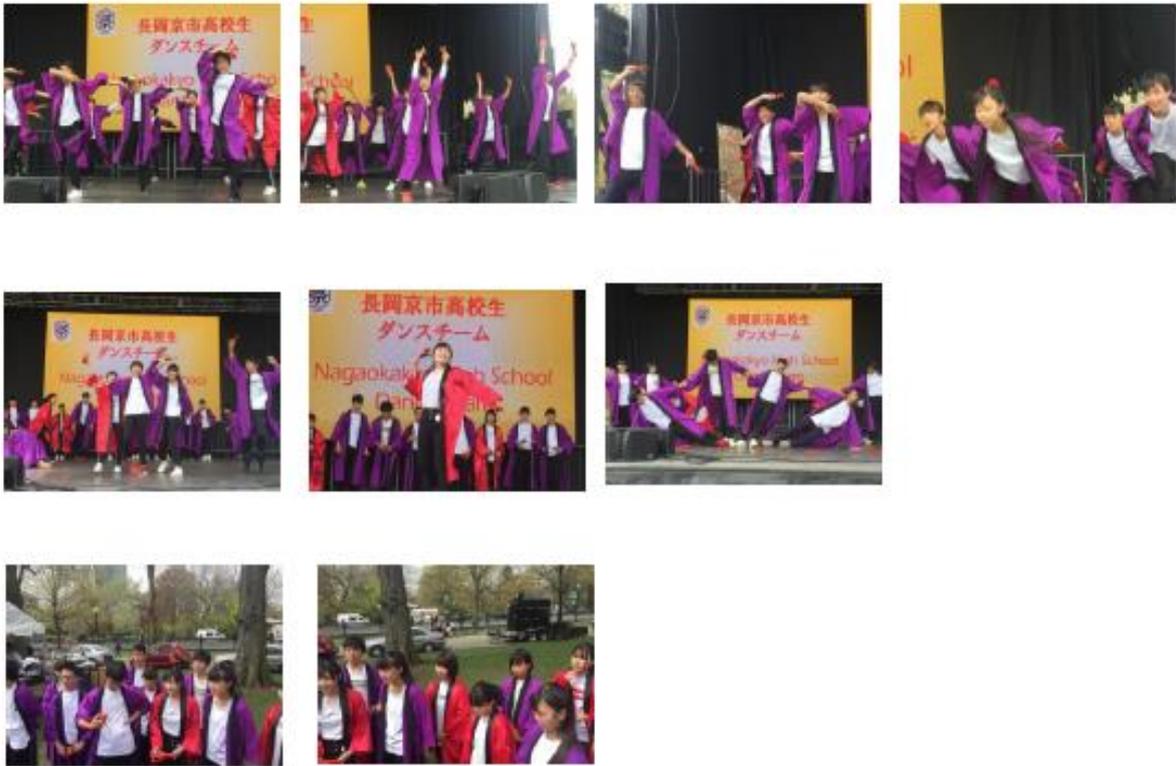
#### ② ボストンコモンに到着

ボストンコモンは町のど真ん中に広がる緑のオアシスで、私たちが到着した時にはすでにパフォーマンスが行われており、いたるところに食べ物を中心としたブースが並んでいました。また、アニメキャラクターやサムライに扮したコスプレイヤーがあちらこちらに見られ、あたかも日本にいるかのような錯覚に陥りました。

#### ③ ステージでのパフォーマンス披露

衣装に身を包んでステージに立った生徒たちは、少し緊張気味でしたが、「Believe」と「ふるさと」を歌いきると緊張もとけ、練習を積み重ねてきた「よさこいソーラン」を力いっぱい踊りました。ダンス中も皆笑顔があふれており、これまでで一番のパフォーマンスだったと思います。観客もその迫力に魅了されたにちがいないと思います。これで彼らも大きな自信を得たでしょう。明日からのパフォーマンスがさらに楽しみです！





パフォーマンスを終えほっと一息

#### ④ ホストファミリーデー

パフォーマンスを終え、生徒たちの表情にも満足感が広がる中、午後からのホストファミリーデーに向けて各自解散しました。今日のファミリーデーも皆すばらしいひと時を持つことを願ってやみません。

## Journal From Arlington, Boston

アーリントン高校 → ショッピング

### アーリントン高校で踊りと歌と英語プレゼンを披露！



本日はアーリントン高校の交流を行いました。パフォーマンスの披露、授業体験、クラブ活動体験等、とても内容の濃い交流になりました。

#### アーリントン高校での交流

アーリントン高校では、朝食と一緒に食べ、校内見学をした後、大きな講堂で両校がパフォーマンスを披露しました。そしてそれから、実際に行われている授業に参加しました。

#### 【1】朝食にパンケーキを食べて、校内見学へ

アーリントン高校の生徒が作ってくれたパンケーキを皆で食べましたが、みなお腹がすいているのか、食欲旺盛でパンケーキ2枚をぺろりと平らげていました。朝食後は、班別にアーリントン高校の生徒たちが校内をツアーしてくれました。



手作りのパンケーキ



スクールツアー



#### 【2】パフォーマンスを披露

大ホールに集まってきたアーリントン高校の生徒たちの前で歌と踊りを披露。スポットライトのあたる舞台の上にあがった生徒たちは、練習を重ねてきた「ふるさと」「Believe」「Sweet Caroline」を熱唱し、「よさこいソーラン」を精一杯踊りました。全てを出し切って歌い踊った日本の生徒たちに会場からもわれんばかりの拍手が！生徒たちの顔もほころび、満足感にあふれていました。また、その前にアーリントン高校の生徒が見事な歌

声を披露してくれました。



現地学生のパフォーマンス



生徒あいさつ



### 【3】京都プレゼンテーション

昨日に引き続き班別に京都プレゼンテーションを行いました。高校生と中学生の息もぴったりでとてもスムーズな発表は素晴らしいかったです！！



### 【4】体育の授業に参加

大ホールでのパフォーマンスを終えた熱気が残る中、生徒たちは体育の授業に参加。体育館でクライミングの授業を体験しました。初めての体験の人が多く、ほとんどの人が抵抗なく登っていたのは、少し驚きました。ただ、時折下を見た時の怖さのために悲鳴(?)が聞こえることもありましたが、本格的な実践の授業に皆満足したと思います。



### 【6】授業に参加

4班にわかれて英語と歴史の授業に参加しました。教室に入る時には少し緊張気味でしたが、とても明るい授業に顔もほころび、“参加型”の授業に異文化を感じた生徒も多かったことでしょう。



### [7] Robotics 部とクッキングを体験

3Dプリンターとコンピューターでぎっしりと埋められた Robotics クラブの部屋に数名の生徒が案内され、実際に 3Dプリンターで作品の製造を体験しました。皆、時間を忘れて食い入るように見入っていました。また残りの人たちはクッキングを体験しました。



今日一日のアーリントンでの活動を終えて、生徒たちは近くのスーパーマーケットへ行きました。どの生徒もたくさんのお土産を買い、「これは〇〇さんにあげる」と“土産話”がそこら中でおこなわれていました。明日はいよいよ終盤で、夕刻にはフェアウェルパーティーも用意されています。最後までこのプログラムを楽しんでくれることを心から祈っています。

## Journal From Arlington, Boston

技術専門学校→ショッピングモール→フェアウェルパーティ

### ミニットマン技術専門学校前にて



#### ① ミニットマンでの交流

技術専門学校「ミニットマン」を訪問しました。ミニットマンは専門的な実習だけでなく、アカデミックな学習にも力を入れている専門学校で、3Dプリンターを使った授業、音楽の授業、保育実習、体育などを見学しました。3Dプリンターを使った授業では、生徒一人ひとりに木製の板に3Dプリンターで自分の名前を彫ったものをいただき、皆その精密さに感動していました。また音楽の授業では学生がすばらしい歌声を披露してくれて、体育の授業では、ピクセルボールというミニテニスを実際に体験し、生徒たちは汗を流しました。昼食をカフェテリアでとったあとに、いろいろなお土産をいただきました。ミニットマンも他の学校同様、大歓迎をしていただき、思い出に残る素晴らしい活動になったと思います。





## ② フェアウェルパーティに参加

ミニットマンでの交流後は、モールでショッピングを楽しみました。ショッピング終了後は、アーリントン高校に皆でバスでもどりました。そして本日最後のプログラムは「フェアウェルパーティ」のみ。女子生徒たちはみな浴衣に身を包み参加。男子生徒の中にも剣道着で参加する生徒もいました。お世話になったホストファミリーの前でふるさとと *Sweet Caroline* を大熱唱。ホストファミリーの方と最後の夜を満喫したことでしょう。ホストファミリーの皆さん、本当に、本当にお世話になりました。10日間という短い期間でしたが、生徒たち一人ひとりが一生忘れない体験をしたと思います。本当に、本当にありがとうございました。Thank you so much.



## Journal From Arlington, Boston

ホストファミリーとお別れ→ウィルソンファームツアー→ポストン空港→日本へ

### アーリントン高校前で最後の記念撮影



#### ① ついにホストファミリーとお別れの日が…

朝の8時半にホストファミリーと一緒にアーリントン高校前に集合。あいにく小雨でしたが、到着した直後から目に涙を浮かべる生徒の姿も。生徒一人ひとりが、ホストファミリーに感謝の思いを精一杯英語で伝えていました。そして、最後の記念撮影が終わると、最後の別れを惜しむかのようにハグをしていました。一人ひとりホストファミリーと過ごした貴重な10日間は、一生の宝物となり、これからの学校生活にかならずや生かすことができると思います。名残を惜しみながらバスに乗り込みましたが、生徒もホストファミリーの方々も大きく手を振りながらアーリントン高校をあとにしました。



バスから最後のお別れ

## ② ウィルソンファームツアー

バスを降りた瞬間にファームの大きさに皆“アメリカ”を実感！最初にこのファームでとれたリンゴを丸ごとその場で食べました。日本では歩きながらリンゴを食べる習慣はあまりないため少しためらいがちでしたが、「ここはアメリカ」とすぐにリンゴにかじりついていました。多くの美しい花や新鮮な野菜など現地の方の説明を熱心に聞き入っていました。“アメリカ”を感じたツアーでした。



## ③ ボストン空港から日本へ

現地時間 13 時 30 分、予定通りボストン空港から成田行きの飛行機に乗りました。生徒はホッとする気持ちと離れたくないという気持ちが混じりあっていたのではないのでしょうか。機内では生徒たちは英語の日記を書いたり、映画を見たりしていましたが、食後はみなぐっすり眠っていました。

あっという間の 10 日間だったと思いますが、生徒たちにとっては一生忘れられない体験になったのではと思います。これからの学校生活にこの貴重な体験をぜひ生かしてもらえればと願っています。

## Ⅱ 来訪の部

1 訪日団員名簿

人数	名前	読み	学年等
1	Mara Colosimo	マーラ コロッシモ	中2
2	Julia Slovotski	ジュリア・スロヴォトスキー	中2
3	Philip Bitteker	フィリップ・ビトゥカー	中2
4	Filip Musial	フィリップ・ミュージアル	中2
5	Peter Amidon	ピーター・アミドン	中3
6	Amber Hazeltine	アンバー・ハゼルティーン	中3
7	Klara Fritsch	クララ・フリッチ	中3
8	Linda Zhou	リンダ・ジョウ	中3
9	Barnabas (Barni) Kiss	バルナバス・キス	中3
10	Ella Crimmins	エラ・クリミンズ	中3
11	Noel Buck	ノエル・バック	中3
12	Daisy Takang	デイジー・タカン	中3
13	Anna Hornak	アナ・ホーナック	中3
14	Malika Brown	マリカ・ブラウン	高2
15	Sophie Routenberg	ソフィー・ルーテンバーグ	高2
16	Seth Edmonds	セス・エドモンズ	高2
17	Kaeden Eng-Canty	ケイデン・イングカンティ	高2
18	Rory Lynch	ローリー・リンチ	高3
19	Jacqueline O'Connor	ジャクリーン・オコナー	引率
20	Blythe Colyer	ブリス・コリヤー	引率
21	Paul Mcknight	ポール・マクナイト	団長

## 2 訪問日程

日	曜日	時刻	内容
7月5日	金	19:40 21:00	伊丹空港 着 JL3009 便 帝産バス駐車場 着 ホストファミリー宅へ
7月6日	土		ホストファミリーデー
7月7日	日	11:00 16:00	ホストファミリーピクニック 淀川河川敷公園 各自解散
7月8日	月	8:45 9:00 10:00 10:20 12:30 13:00 14:00 17:00	市役所玄関前 集合 市長表敬訪問 柳谷観音楊谷寺へ出発 到着後、境内見学、写経写仏体験、クイズラリーなど 出発 かっぱ寿司 着 金閣寺 見学 長岡京市役所 解散
7月9日	火	8:30 13:30 14:00 16:30 19:00	神足小学校 集合 交流プログラムに参加 学校給食 体験 神足小学校 出発 乙訓高校 着 乙訓高校 解散 カラオケナイト
7月10日	水	8:30 17:00	長岡第三中学校 集合 交流プログラムに参加 給食体験 交流プログラムに参加 部活動 参加 長岡第三中学校 解散
7月11日	木	8:30 17:30	西乙訓高校 集合 交流プログラムに参加 給食体験 交流プログラムに参加 部活動 参加 西乙訓高校 解散
7月12日	金	8:30	市役所玄関前 集合 奈良観光 伏見稲荷大社

		17:00	市役所玄関前 解散
		19:00	フェアウェルパーティ 産業文化会館 1F 大ホール
7月13日	土		ホストファミリーデー
7月14日	日	9:00	市役所玄関前 集合 アーリントン学生はバスで出発 太秦映画村 ホストファミリー参加の場合、各自現地集合 嵐山観光
		16:00	市役所玄関前 解散
7月15日	月		ホストファミリーデー
7月16日	火	11:00	帝産観光バス停留所 集合
		11:30	長岡京市 出発
		12:30	伊丹空港 着
		14:40	伊丹空港 出発 JL3006 便

### 3 訪日団 引率者 挨拶

Hello and Good Morning!

おはようございます。

My name is Paul McKnight, and as an administrator of Arlington High School, I am honored to say a few words on behalf of our delegation, the staff of Arlington Public Schools, and, indeed, the Arlington community as a whole!

私の名前はポール・マクナイトです。アーリントン高校で教職員をしています。訪問団、アーリントン公立学校、そしてアーリントンの地域を代表して、ご挨拶させていただきます。

First, I would like to say thank you to Mayor Nakakoji, to the city and school officials, and to the host families for the incredibly warm welcome we have received upon arriving here in Nagaokakyo-Shi. Your hospitality is very touching and much appreciated.

初めに、長岡京市に到着して間もない私達を温かく歓迎して下さった、中小路市長、市職員及び学校の教職員の方、そしてホストファミリーの方々に対して、感謝申し上げます。

貴方方のおもてなしに、本当に感激しております。

Like many of the Arlington students visiting this week, I am in Japan for the very first time. I find myself on the other side of the world, immersed in a culture that, in many ways, is so different from that which I call my home. But, because of the special relationship that Arlington has with our sister city, Nagaokakyo, I knew that we would quickly feel at home and among friends!

この度来日した多くのアーリントンの生徒と同様に、私も日本を訪問するのは初めてです。自分の故郷とは全く異なる文化圏である、地球の反対側に、自分が今立っていることを実感しています。しかし、これまでアーリントンが姉妹都市である長岡京市と特別なつながりを築いてきたおかげか、私達は長岡京市を身近で親しみのある場所だと感じるのです。

This relationship between Nagaokakyo and Arlington, specifically this student exchange, has been nurtured over many years by the hundreds of students, families, and staff who have participated. We bring with us the affection of Arlington community, many of whom cherish this program and have formed lasting friendships, as I quickly discovered when the mayor and his delegation visited Arlington in April.

長岡京市とアーリントンのつながりの中で、とりわけ生徒の交流は、これまで参加してきた、何百人もの生徒や、家族、職員達によって発展してきたものであります。

市長が4月にアーリントンを訪問した際、

このプログラムに愛着のあるアーリントンの沢山の人々が、このプログラムを大切にして、末永く続く友好関係を形作ってきたのだと気づきました。

We have so much to learn from one another—what makes us different from one another, as well as what we have in common. I'm sure all of us who are educators would agree that an exchange like this is one of the most meaningful learning experiences we can offer ourselves and our young people. The memories that we make this week will last a lifetime.

アーリントンと長岡京市、それぞれに異なる部分があること、共通している部分があることを、私達は多くをお互いから学びました。教育者である私達全員が、このような交流は私達や若い世代の人々にとって、最も有意義なものであると考えています。今週の出来事一生の思い出となるでしょう。

So, from your sister city in Arlington, Massachusetts, it is wonderful to be here and thank you for your hospitality.

最後に改めて、貴方方の姉妹都市であるマサチューセッツ州アーリントンを代表し、こちらにお招きいただき、おもてなしをしていただいたことに感謝致します。

#### 4 訪日団生徒リーダー挨拶

##### ・女子リーダーの挨拶

Hello everyone! My name is Sophie.

皆さんこんにちは、私の名前はソフィーです。

I have been involved in this program since I was 6 years old and I am very happy to have had the opportunity to meet so many friendly people.

私は6歳の時からこのプログラムに関わりがありました。友好的な沢山の人と出会う機会があったことは、私にとってとても嬉しいことでした。

It has truly been an honor to host so many amazing students, I have learned so much from them. Along with gaining more knowledge, every year I gained a lifelong friend.

私の家でこれまで沢山の素敵な生徒達をホストとして受け入れてきたことは本当に光栄なことであり、彼らから多くの事を学ばせてもらいました。知識が増えるだけでなく、毎年生涯の友人が増えていきました。

We are all very thankful and very excited to be here. Thank you for welcoming us!

皆長岡京に來られて、感謝の気持ちとともにとてもワクワクしています。

私達を歓迎していただき、ありがとうございます。

##### ・男子リーダーの挨拶

My Name is Rory Lynch. I am going into my last year of school back in Arlington.

私の名前はローリー・リンチです。今年高校最後の学年になります。

I just want to thank you all for letting us stay in your town and in your homes.

長岡京市に滞在し、ホームステイをさせていただいて、ただただ感謝しています。

Back in Arlington, my family has been a part of this sister city program for 6 years now and I, as well as my fellow students, are very excited to continue our involvement on this side of the program.

振り返ると、これまで私の家族はこの姉妹都市交流プログラムに6年間関わってきました。他の団員達と同様に、このプログラムに関わり続けるのを楽しみにしています。

We are excited to see what Japan is like. Please show us what Japan has to offer. Thank you all again for your hospitality.

私達は日本がどのような国なのか、何をもちたらしめてくれるのか、楽しみです。

改めて、貴方方のおもてなしに感謝致します。



# アーリントン訪日団 友好紀行



長岡京市教育委員会 学校教育課 第1号

★★主なプログラム 令和元年7月7日、7月8日★★

淀川河川敷ピクニック、表敬訪問

Picnic at Yodo River, Courtesy Call



淀川のほとりでピクニック。  
日米両生徒は、1日ですっかり打ち解けたようです。



表敬訪問では、生徒の代表もスピーチ。  
緊張した様子でした。



日差しが強く、テントの下に集まる生徒も。  
アーリントンよりも、日本の夏は暑いそうです。



最後に、市長、教育長と記念撮影しました。



## アーリントン訪日団 友好紀行



長岡京市教育委員会 学校教育課 第2号

★★主なプログラム 令和元年7月8日★★

楊谷寺、回転寿司、金閣寺

Yokokuji Temple, Sushi Restaurant, Kinkakuji Temple



楊谷寺では、ご住職様からお話を聞いた後、写仏、スタンプラリーを楽しみました。日本で最初に訪れたお寺だったので、新鮮に感じた生徒も多かったようです。



初体験の回転寿司では、何皿食べられるか挑戦！



世界文化遺産である金閣寺を拝観。本当に綺麗な金色であることに、皆興奮していました。



## アーリントン訪日団 友好紀行



長岡京市教育委員会 学校教育課 第3号

★★主なプログラム 令和元年7月9日★★

神足小学校、乙訓高校、カラオケナイト

(Kotari Elementary School, Otokuni High School, Karaoke Night)



神足小学校の授業体験で、漢字の書き方を学びました。普段は国語を教わっている日本の小学生たちが、この時は先生になりました。



乙訓高校で水泳の授業体験。アメリカはプールがもっと深いそうです。



神足小学校で、学校給食を初体験しました。できたての給食を皆、美味しそうに食べていました。



夜はカラオケナイトで熱唱！より一層仲良くなった日米両生徒達。最後は大合唱状態でした。



## アーリントン訪日団 友好紀行



長岡京市教育委員会 学校教育課 第4号

★★主なプログラム 令和元年7月10日★★

長岡第三中学校訪問

(Visiting Nagaoka 3<sup>rd</sup> Junior High School)



長岡第三中学校の音楽の授業体験。  
日本人生徒が手本になって琴を弾きます。



部活動体験。卓球ではラリーをできるだけ続けようと、  
一生懸命頑張っていました。



長岡第三中学校では始まったばかりの給食を食べました。  
小学校より量が多いので、食べ応えがありました。



剣道部の生徒から直接指南を受けました。



## アーリントン訪日団 友好紀行



長岡京市教育委員会 学校教育課 第5号

★★主なプログラム 令和元年7月11日★★

西乙訓高校

(Nishiotokuni High School)



過去にアーリントンを訪問した日本人生徒と、西乙訓高校で久々の再会です。



茶道部の生徒がお茶を点ててくれました。



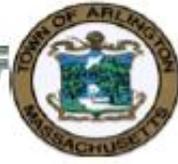
今年も、毎年お世話になっている指導員の方から、アーチェリーを教えていただきました。



学校を挙げての歓迎に、皆感動した様子でした。



## アーリントン訪日団 友好紀行



長岡京市教育委員会 学校教育課 第6号

★★主なプログラム 令和元年7月12日★★  
奈良方面観光、伏見稲荷大社  
(Sightseeing in Nara, Fushimi Inari Shrine)



奈良公園を散策。  
鹿の勢いに圧倒されていました。



伏見稲荷大社に参拝しました。  
鳥居のトンネルが印象的だったようです。



東大寺で柱の穴くぐり。  
チャレンジした生徒は、皆軽々とくぐりぬけて  
いました。



二礼二拍手一礼も、スムーズにこなしていました。



## アーリントン訪日団 友好紀行



長岡京市教育委員会 学校教育課 第7号

★★主なプログラム 令和元年7月12日★★  
フェアウェルパーティ  
(Farewell Party)



パーティには、浴衣や甚平を着てくる生徒も。皆、よく似合っています。



アメリカ人生徒が日本語で、日本人生徒が英語でスピーチをしました。  
互いの思いを伝えあい、感動的なムードでした。



折り紙コンテストでは、3分間で作品を作りました。10日間で一気に上達した生徒もいました。



最後は、日米両生徒で、大合唱！大盛況でパーティが終わりました。



## アーリントン訪日団 友好紀行



長岡京市教育委員会 学校教育課 第8号

★★主なプログラム 令和元年7月14日★★  
太秦映画村、嵐山方面観光  
(Farewell Party)



映画村ではレプリカの刀を購入する生徒も。  
なかなか様になっています。



嵐山を観光中の一行。  
渡月橋を渡りました。



ホストファミリー達と記念撮影。



モンキーパークで猿と触れ合いました。  
至近距離での餌やりは楽しそうでした。